



# 神山蘭子調教日誌②⑧

原寸サイズ  
文字無し付き

体育の授業の後、神崎の体操着にムラっとしたので、用具の片付けの手伝いと称して体育倉庫に呼び出す事にした。

「おい神崎、用具室の片付け手伝え」  
「…っ…はい…」

「先生！神崎さんばかり雑用押しつけじゃないですか?!」  
「めんどくせえ、クラスのモブが盾突いて来やがった」

「これは仕事とやらで出席日数の少ない神崎の補習の意味もあるんだよ。  
…まあいいか、じゃあ棚橋も俺の片付け手伝ってくれるか?」

「……………!!!」

「リ、リホちゃん…私はひとりで大丈夫…だから…」  
「ほんとっ?…嫌な事は嫌って言わないとだめだよ?」  
「…先に着替えて待ってるね」

「おう。じゃあさっさと済ませるぞ」



「早く股開け。さっさと済ませるぞ。」

じゃないと柵橋が戻ってくるからな。まア俺はそれでもかまわんが？」

「……はい」

神崎のまんこは、神崎の気持ちとは関係無く  
俺のちんこを見るだけで濡れるようになってる。

おそらく俺が散々、前戯無しで突っ込んだから、  
神崎の身体が自分を守るためにそうなったんだろう。  
梅干しの涎やパブロフの犬みたいなものだな。

まさに調教の成果だ。

「あのー」…「ゴムは…」

「あ？そんなもん付けたらイクのに20分も30分もかかんたる。そうしたら柵橋が戻って来ちまうけどいいのかア？」

「……………無しで…お願い…します…」

「ったく便器が」ちやこちや言っんじやねえよ。  
お前はまんこ締めて俺を気持ちよくさせる事だけ考えてる」



生で挿れるのは久々だが、やっぱりゴム有とは大違いだ。

「おーいいぞ……もうイキそうだ……」

「ぶっ……ぐっ……あ、あの……中には……出さないで……くだ……さ……い」

「あっ……じゃあど……に出すんだよ！顔射にするか？」

他の連中にバレちまうだろうがな。俺はそれでも構わんが？」

「っ……」

「早く決めるよ。あーもう出ちまうぞ。」

「……な……なか……で……おね……が……い……します……」。

もちろんはじめからそのつもりだが、自分から膣内出しを懇願させてやる。

「さっさと片付けて戻れよ。オマエが次の授業に遅れると俺が「ちゃ」「ちゃ言われんだからな」

「……………はい。。。」

神崎の生理周期的に妊娠しないだろうが、まあしたとしても神崎が何とかするだろう。

今回は調教というよりは俺の性欲処理目録だったな。













